

緑鮮やかな多収性の新品種候補「ゆめするが」

[研究のねらい]

- 静岡県茶栽培面積のうち90%以上が「やぶきた」で占められています。
- 近年、摘採期の集中化や香味の画一化等「やぶきた」偏重の弊害が顕在化しているため、収量性、品質に優れ、「やぶきた」とは早晚性の異なる品種を育成する必要があります。

[研究の成果]

- 来歴: 種子親「おくひかり」×花粉親「やぶきた」
- 交配年: 1986年(昭和61年)
- 早晚性: 「やぶきた」に比べて4日遅いやや晩生
- 樹姿: 中間型 樹勢: 極強 耐寒性: 赤枯れ「中」
- 耐病性: 炭疽病「弱」、赤焼病「中」、赤葉枯病「やや強」、輪斑病「やや強」
- 耐虫性: クワシロカイガラムシ「やや弱」
- 収量性: 「多」
10a当たり収量は、「やぶきた」に比べて本場では一番茶で190%、年間で176%、山間地でも一番茶が131%、年間で155%と多収です(図1)。



写真 「ゆめするが」の一番茶

- 品質: 「良」

総合的に「やぶきた」を上回ります。特に色沢、水色が優れ、一番茶の概評では、外観が細よれ、鮮緑、内質ではまるやかな香味、甘い香りと評価を得ています(図2)。

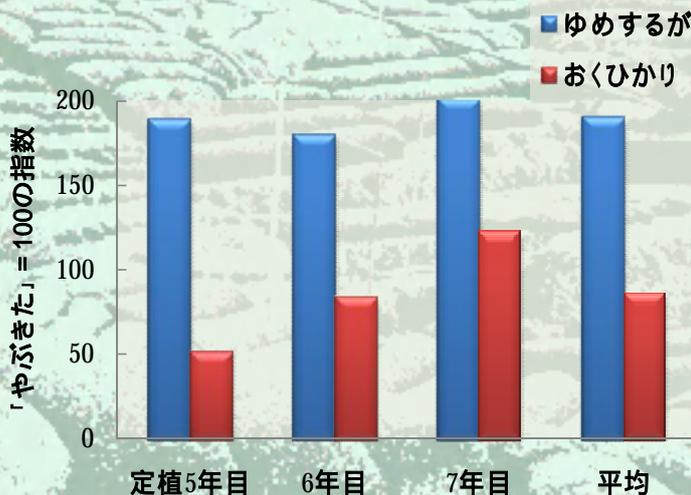


図1 10a 当たり一番茶収量
(本場、「やぶきた」= 100 の指数)

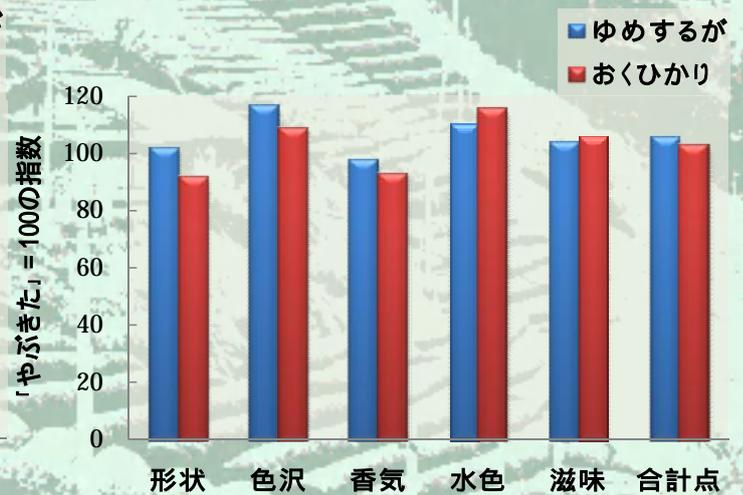


図2 一番茶の品質特性
(本場3年平均、「やぶきた」= 100 の指数)